

# 生物多様性条約締約国会議決議において使用される動詞とその強弱

作成 道家哲平 日本自然保護協会

University of Joensuu・UNEP・Environmental Canada共著「Multilateral Environmental Agreement Negotiator's Handbook 2006」を元に作成している。ただし、解説は、基本的な事例を紹介しているため、例外は多くあることに留意

<http://www.unep.org/environmentalgovernance/Portals/8/documents/NegotiatorsHandbook.pdf>

	動詞	訳	解説
	<b>&lt;自身の行動に関する動詞&gt;</b>		
	decide	～することを決定する	会議開催、専門会議の設置などを「決める」など、条約としての行動や立場を決定する際に使う言葉
	<b>&lt;自身の取組みに対して呼応する動詞群&gt;</b>		
弱 強	take note	～を考慮する	(主として、条約のプロセスの中で生まれた)ある特定の文書、指針や行動計画などに対して使われる言葉
	adopt	～を採択する	
	<b>&lt;上位機関から下位機関に対する動詞&gt;</b>		
	Request	～に～を要求する	事務局に対して使われる言葉。これより弱い動詞はなく、優先度を下げる場合、subject to availability of resources (資金の確保の状況に応じて)といった言葉を差し込む。ごくたまに、SBSTTAに対しても使われる
	<b>&lt;下位機関から上位機関に対する動詞群&gt;</b>		
	Recommend	～に～することを勧告する	あまり多くないが、SBSTTAなどの補助機関が上位組織であるCOPに対して「提言する」際に使う
	<b>&lt;他者に行動を惹起する動詞群&gt;</b>		
弱 ↑ ↓ 強	encourage	～に対して～するよう奨励する	締約国等に行動を呼びかける動詞。Encourageは頑張って何々してねという語感、inviteは行動を勧める、call onは行動を求める、Urges緊急性をもってもとめる。明確な区別なく使われるときもある。締約国にはurgesで、他の政府にはinviteと使い分けることもある。
	invite	～に対して～するよう依頼する	
	call upon/on	～に対して～するよう求める	
	urge	～に対して～するよう(緊急性をもって)求める	
	<b>&lt;外部の動きに対して呼応する動詞群&gt;</b>		
弱 ↑ ↓ 強	note	～を留意する	(主として条約の外部からきた)報告書や他の機関決定、活動を目的語にとる。Noteは交渉官がそれらを読んでいない時(会議間際にできた、CBDとは異なる文脈から出てきたなど)、welcomeは読んだ上で支持する場合、endorseはさらに強く支持する場合
	welcome	～を歓迎する	
	endorse	～を承認する	
	<b>&lt;意思の表明や立場の確認等 心情に関する動詞群&gt;</b>		
弱 ↑ ↓ 強	recall	～想起する	過去の取組み(決議)を目的語に取る
	bearing in mind	～配慮する	必要性(need)や重要性(importance)を目的語に取る
	mindful	～意識する	
	recognize	～認識する	
	emphasize	～強調する	
	acknowledge	～(感謝の念と共に)認識する	謝意の表明 強弱は不明
express its appreciation/s	～を感謝する		